

# 東福岡高等学校訪問

日時：平成31年1月24日(木) 10:30～12:00

訪問先：福岡県東福岡高等学校

担当者：松原功 校長、林健二 教諭、権藤和彦 教諭(剣道部監督)、植木貴頼 教諭(陸上競技部監督)

報告者：スポーツ研究所所員

吉田清司(法学部教授)、齋藤実(経営学部教授)、富川理充(商学部教授)、平田大輔(文学部教授)

## 1. 東福岡高等学校の概要

創立者である徳野常道先生が戦後の焼け野原になった福岡で「日本の将来は教育にあり」と考え、昭和20年に福岡米語義塾、昭和30年に東福岡高等学校を開校した。各学年約750名全校生徒約2300人のマンモス男子校である。

平成30年度のインターハイに出場した競技は9部(サッカー部、ソフトテニス部、陸上競技部、空手道部、ボクシング部、バレーボール部、水泳部、重量挙げ部、剣道部)であるが、ラグビー部も強豪校として知られている。

進学実績も合格者総数が152大学、1685

名、現役合格率が93.1%と文武両道の男子進学校である。学校は博多駅から徒歩圏内にあり、人工芝グラウンドにはサッカー場、ラグビー場、ハンドボール場4面、陸上競技練習場、プール(25m)がありヤフオク!ドームグラウンドの1.7倍の広さである。体育館は清風館(柔道場と剣道場)と雄飛館(メインアリーナ、トレーニングルーム、ボクシング部・空手部・卓球部・重量挙げ部の練習場)がある。また、香椎校地には屋内練習場、野球場、人工芝テニスコートがある。

## 2. 所感

高等学校と大学と教育機関は異なるが、約半数の生徒が何かしらの部に所属し、スポーツの強豪校にありがちなスポーツクラスというものではなく、部活動に参加している生徒もそれぞれのコース(特進英数、特進、進学)に所属している。部活動で主力となり全国大会で活躍しながら学業でも好成績を収め、文武両道を実践している生徒が多数いることは、高い志を持つもの同士で切磋琢磨できる環境にあると思われる。

最後に、平日の授業期間中にもかかわらず、貴重な時間を割いて対応して頂きました。松原校長をはじめ東福岡高等学校の先生方に厚く御礼申し上げます。



【写真1】  
ギャラリーには高校総体や国民体育大会などの全国大会の記録が飾られている。通称「ビクトリーロード」。



【写真2】  
在校生の活躍だけでなく、OBで日本代表などで活躍するアスリートのユニフォームやサインも飾られている(写真はサッカー長友選手のユニフォーム)。



【写真3】  
ギャラリーには、大学合格者の名前が毛筆手書きで書かれている。「頑張って合格を勝ち取った生徒に印刷では失礼との創始者の考えのもと、高校創設当初から毛筆手書きを続けている(校長先生談)」



【写真4】  
HIKAZRI SQUARE。200インチスクリーンとプロジェクター付きのステージがある多目的ホール。



【写真5】  
柔道場。畳(マット)の質や色、ライトの光量など、国際規格で作られている。



【写真6】  
剣道場。公式試合場を3面確保できる広さを誇り、収納機能などは剣道専用で設置されている。ギャラリーには剣道に関する書画や鎧などが飾られている。



【写真7】  
情報メディアセンター(図書館)。210席の閲覧室があり、コンピュータールーム、ブラウジングルームも設置されている。



【写真8】  
創立者徳野常道先生記念講堂。860人を収容でき、300インチのスクリーンを完備する。



【写真9】  
メインアリーナ。バレーボールコート4面分の広さを誇る。日本代表が合宿で使用することもある。



【写真10】  
トレーニングルーム。広いスペースに機能的にマシンやダンベル、ラックなどが整備されている。



【写真11】  
空手場。この他に、ボクシング、卓球、重量挙げの施設がある。



【写真12】  
人工芝グラウンド。サッカー、ラグビーなどが使用している。全体でヤフオクドームグラウンドの1.7倍の広さを誇る。その他、香椎駅近くの香椎校地にはBig Box(屋内練習場)、野球場、人工芝テニスコートがある。



【写真13】  
ラグビー専用トレーニング施設。効率よくトレーニングができるように、グラウンドのすぐ隣にトレーニングラックが用意されている。



【写真14】  
校舎全景。正門入ってすぐのセンターサークルより撮影。



【写真15】  
訪問にご対応いただいた松原校長(右後)、権藤教諭(左前)、植木教諭(左後)